

アクティブ・ラーニングツール「AIAI モンキー」を活用した 授業プログラムの開発と効果



千葉大学教育学部 教授
千葉大学教育学部附属中学校 校長
藤川 大祐

1. 「わくわくの実」の活用方法

「わくわくの実」は、子どもたちや先生が多様な意見に偶発的に出会っていただくために活用いただくことを推奨しています。

日頃の授業では、積極的に挙手する子どもの意見や、多数派の意見がまず共有されやすくなり、あまり積極的でない子どもの少数意見が活かされることは難しいものです。仮に抽選等でランダムに指名したとしても、少数派の意見が選ばれることは難しいです。

しかし、「わくわくの実」は、使われている頻度に応じた大きさにキーワードが表示されます。このため、小さく表示される少し変わったキーワードをクリック（タップ）すると、少数派のユニークな意見に出会いやすくなります。

「わくわくの実」は、授業の前半の多様な意見を出し合って話し合いを拡散させる局面で使うことがオススメです。たとえば、次のように使うとよいでしょう。

- ① 何人かの子どもが入力を終える
- ② 先生が「分析」を行い、「わくわくの実」を表示させる
- ③ 入力が終わった子どもは、「わくわくの実」で自由に他の子どもの意見を読む
- ④ 先生も「わくわくの実」を見て、興味深い意見等を読み上げる
- ⑤ 先生は随時「分析」を行い、「わくわくの実」を更新する
- ⑥ 全員が入力を終えたら、子どもたちに端末を閉じさせ、先生がいくつかの意見を確認する（特にまとめる必要はない）



子どもたちが深く考え、話し合いを収束させていくときには、「意見分類」を活用します。

2. 「意見分類」の活用方法

「意見分類」は、子どもたちの意見を最大 4 種類に分類し、教室全体の傾向を見ながら個々の子どもの意見を確認するために活用します。

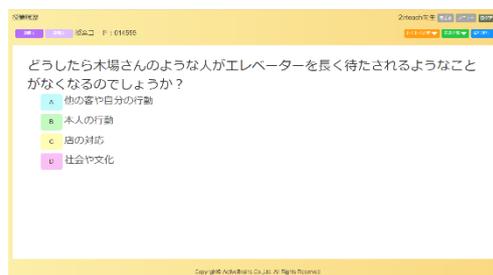
「意見分類」には、最大四つまでの選択肢を決める準備が必要です。選択肢には、先生が決めておく使い方と、子どもたちに決めてもらう使い方があります。どの場合にも、原則として“D”は「その他」にしておくと、「違うことが書きたい」という子どもも書きやすくなります。

◆ 選択肢を先生が決めておく使い方

あらかじめ、「AAI モンキー」に課題とともに選択肢を入力しておきます。この場合、教室の子どもたちの様子を思い浮かべて、どの子どもたちも「この選択肢があるなら張り切って書こう」と思える選択肢になっていることが理想です。

たとえば、「エレベーターの前で」という教材であれば、

- A お客さんに言いたい
- B デパートの人に言いたい
- C 車椅子を使う人に言いたい
- D その他



のように、言いたい相手で分類するという方法があります。

あるいは、

- A 絶対読んでほしい
- B よかったら読んでほしい
- C 自信がないから読まなくていい
- D その他

のように、読んでほしい強弱で分類するのも面白いです。子どもたちが意見を出したくなるよう、さまざまな工夫をしていただくことを期待しています。

◆ 選択肢を子どもに決めてもらう使い方

先生が選択肢を決めることを何回かやったら、「今日は選択肢をみんなで決めてもらお

うかな」と言って、子どもたちが「決めたい」と言ったら決めてもらうというのもよいでしょう。選択肢を考えることは、自分だけでなく他の人の意見を想像することになるので、話し合いを自分たちで進めることにもつながりますし、自分の意見を深めることにもつながるでしょう。

具体的には、Dに「その他」を入れた選択肢設定画面を見せ、抽選で3名の子どもを指名し、順番にA、B、Cの選択肢を決めてもらうのです。子どもたちには、教室の子どもたちの意見がうまく分かれるといいということをお話しておくと、よく考えてくれると思います。どんな選択肢が出て、子どもたちがそれぞれの意味をわかれば十分であり、AにもBにもCにも当てはまらないことを書きたい子どもはDに書くことができるので、それぞれの子どもが出したものを基本的にそのまま採用してよいと思います。何回かやっていくうちに、気の利いた選択肢を考える子どもが増えていくでしょう。

このようにして選択肢を設定した上で、子どもたちには意見を入力してもらいます。そして、授業の前半の議論を拡散させる局面では「わくわくの実」を主に使い、その後の議論を収束させる局面で「意見分類」を使うとよいでしょう。「わくわくの実」で偶発的に多様な意見を見た後に、基本的には先生が主導し「では全体の傾向を見てください」などと言って、「意見分類」を表示させると、各選択肢を選択した子どもの割合と人数が表示されます。一目でクラスの傾向がわかるわけです。その後は、たとえば少数派の意見からどんどんスクロールしていき、分類ごとの意見を眺めていきます。短時間で眺めるように全体の傾向を確認し、その上で意見を深めていくとよいでしょう。



3. AIAI モンキーを活用した話し合い活動の深め方

「AIAI モンキー」では、まず議論を拡散させる局面で「わくわくの実」を使い、多様な意見に偶発的に出会えるようにします。そして、その後、「意見分類」を活かして教室全体の傾向を確認します。ここまでの過程で、子どもたちはかなりの程度、他の人の意見を理解しつつ考えを深めているはずで

授業時間に余裕があれば、さらに設問 2 にも意見記入をしてもらい、また「わくわくの実」や「意見分類」を活用してもよいでしょう。時間が厳しければ、「わくわくの実」や「意見分類」を活かして他の人の意見を存分に理解した後にあらためて自分はどうか考えるのかを問い、考えることを挙手で何人かに発表させたり、「振り返り」やワークシートに書かせて提出したりすることで十分かもしれません。

4. 「振り返り」の活用方法

「振り返り」は、「わくわくの実」や「意見分類」を使って存分に他の人の意見を理解した後に、あらためて自分はどうか考えるのかと自分に向き合って書くものです。一人一人が自分と向き合って考えを書き、基本的には先生がそれをあとで読んで必要に応じてコメントしてあげることが考えられます。

ID	回答分類	設問1	意見	回答分類	意見	振り返り
010105	C	車椅子を強制的に優先するようになる。車椅子のみのエレベーターをつくる。		D	車椅子をそのない人が嫌な気持ちにならない社会、そのためには、互いに尊重し合う事が大切だと書く。	いろんな意見が見れてよかった。
010106	C	不自由な人が乗れるエレベーターを作る。		A	半粒。そのために外国人みたいな、優しい美女になる。	みんながどのような意見を持ったか見てみたいと思った。単語ごとに分けられていてすごいと思った。
010107	A	歩ける人は歩く!! 歩けない人は歩かない!!		A	楽がいてころを持つた社会にしたい。棒指書を見て、意見を読まえたうえで、最終的な賛成と反対を知りたかった。	楽しく授業に集中できた。
010108	B	周りの人が笑つかう。私売りたいんですけどいう。		A	困っている人がいたら積極的に話しかける。卑いすや誰だんあまり話さない人の意見も見れてよかった。入力する書のある人が使うエレベーターは楽ならいもうする。	
010109	C	エレベーター内で、「障害のある人にエレベーターをゆずりましょ」と促す放		A	誰かが不自由なく暮らせる社会を作っていく必要があると思う。そのためには、困った言葉の意見を見て、意見が伝わった。人の意見をたくさん見るとは誰よりも簡単くことは大事なことだと思つ。	

5. 限られた時間内での効果的な活用方法

「AIAI モンキー」は、じっくり考えたり、他の人の意見を理解したりするのに時間を使って授業を行うための道具です。ですから、教材を理解したり口頭で話し合ったりすることに多く時間をとるのでなく、考えたり読み書きしたりする時間を大胆に多くとっていただく必要があります。たとえば、長い文章教材などを使う場合には読んでくることを宿題にする等、授業時間で考えたり読み書きしたりする時間が存分にとれるように授業の方法を工夫していただきたいと思います。

6. 道徳以外の教科での活用方法

道徳以外でも、全員が自由記述で意見や質問を出す授業では同様に活用可能です。大学の授業で毎週活用している例もあります。「AIAI モンキー」を使えば、少数派の意見を活かし
たりクラス全体の傾向を短時間で確認したりすることが容易になりますので、さまざまな教科・領域の「主体的・対話的で深い学び」に活用いただけます。